

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：奈良県奈良市

概要：

歴史的町並みの残る奈良町は、木造密集地区であるものの、防火・防災の面で地域住民の基本的な対応は無防備ともいえる状況です。当団体は、安全・安心・快適な町家暮らしの促進と町並み保全をめざし設立されました。助成対象活動では、地元自治会、行政、企業などの協力を得ながら、町家暮らしの高齢者の実態調査（ヒアリング調査）や地域問題・防災問題などをテーマとしたワークショップの開催などを通して、ハード・ソフト両面から安全・安心・快適な町家暮らしのシステム（まちぐるみの防災環境の整備、まちぐるみの防犯環境の整備、独居高齢者に配慮したシステム、NPO等による人的サービスシステム）の提案を作成し、提案は報告書およびパンフレットとしてとりまとめ、関係者や希望者に配布しました。

〔奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会〕

- ・ 代表者：上嶋 晴久
- ・ 連絡担当者：上嶋 晴久
- ・ 連絡先：〒630-8333 奈良県奈良市中新屋町2-1
- ・ TEL：0745-23-2245
- ・ FAX：0745-24-2262
- ・ E-mail：hull@kcn.ne.jp
- ・ ホームページ：http://www4.kcn.ne.jp/~nmc/anankai/top

1 目的と経緯

目的：

歴史的町並みを持つ奈良町等において、誰もが安心して長く住み続けることができるシステムの研究と提案

経緯：

独居老人や身障者が逃げ遅れた火災の発生を契機として、まちづくり団体や建築家等技術者のネットワークが有志により設立された。

奈良町の中新屋町において、数年前に独居老人や独居身障者が逃げ遅れた火災が2件発生し、自治会では防火バケツを軒先に置くなどして、防火意識の向上に努めているが、歴史的町並みの奈良町は木造密集地域であり防火・防災の面で地域住民の基本的な対応等、未だに無防備状態と言える。そういう状況において奈良町に基盤を置いて活動している、まちづくり団体や建築家など技術者ネットワークの有志により、2002年7月頃より話し合いが持たれ、奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会が設立され、問題解決に向け調査研究活動を推進している。

奈良町などの歴史的町並みを持つ地域は高齢化や観光化に伴う弊害、木造密集地での火災・地震などへの防災、防犯、独居高齢者の緊急時通報システム等、高齢者やハンディを持った人々が安心して長く住み続けるためには、町や住まいへの十分な配慮が



奈良町中心部

必要と考えられ、そのような観点から、奈良町の中心部である中新屋町をケース・スタディし、住環境の技術、地域コミュニティとしての具体的な助け合いや緊急連絡体制などのシステムを研究・提案することにより、安全・安心・快適な町家暮らしの促進と歴史的町並み保全に役立つことを本活動の目的とした。

2 活動の内容

(1) 中新屋町在住の独居高齢者に対する聞き取り調査

中新屋町に住まいされている独居高齢者7人のうち、3人についての聞き取り調査を行うことができた。調査対象者の3人とも80歳を超える高齢にも拘わらず、精神的に気丈な方々で、身体的には、足や耳等の一部機能障害を持ってはいるものの、自身では普段の生活にはあまり不便を感じておられないように見受けられた。これは、聞き取り調査を受けることができる高齢者については自力により、社会とのコミュニケーションをはかる生活が可能という裏返しの結果なのかもしれない。

(2) ワークショップの開催による問題点の抽出 第1回ワークショップの概要(地域問題)

日時：2004年7月18日(日)午後7:00～9:00

場所：奈良町物語館

参加者：ワークショップ講師：奈良まちづくりセンター理事 米村博昭氏

研究会：田中、笠本、菊岡、今来、和田、大津、柳井、野崎、上嶋

内容：中新屋町自治会メンバーの協力を得て今後の検討すべき事柄を、ブレインストーミングにより、中新屋町の良い所、中新屋町の改善すべき点を話し合い、安全・安心・快適に関する問題点の抽出作業をした。



中新屋町の町並み

第2回ワークショップの概要(防災問題)

日時：2004年8月28日(土)午後7:00～9:00
場所：奈良町物語館

参加者：ワークショップ講師：奈良市消防団春日分団 水野武雄氏、笹本國廣氏
研究会：菊岡、笠本、今来、中川、藤原、野崎、上嶋、有安
内容：奈良市市消防団春日分団の水野分団長と笹本氏の話をつきかけに、問答形式で火災をはじめ防災全般にわたる議論と、奈良町の福祉と防災について、高齢化と行政の施策について議論された。

第3回ワークショップの概要(防犯問題)

日時：2004年9月25日(土)午後7:00～9:00
場所：奈良町物語館

参加者：ワークショップ講師：地域情報ネットワーク(株)若林清氏
研究会：菊岡、笠本、今来、和田、藤原、野崎、上嶋、有安、米村、藤野
内容：警備の専門家である若林氏の話聞きながら中新屋町での主に防犯についての話し合いを行った。

第4回ワークショップの概要(総合)

日時：2004年11月19日(金)午後6:30～9:00
場所：元興寺(世界遺産)小子坊 奈良市中院町11番地

コーディネーター：大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授 藤田 忍
参加者：奈良大学学生、教授、中新屋自治会関係者、春日分団、奈良女子大学学生、奈良まちづくりセンター関係者、元興寺住職、研究会、等合計31名
協力：中新屋町自治会、奈良市消防団春日分団、元興寺
内容：今回は奈良町フォーラム分科会を兼ねており、研究会の進捗状況の説明の

後、フォーラム形式により、全体のコーディネートを大阪市立大学の藤田忍教授により進められた。

研究会の発表は、上嶋、有安の2名により行われ、今まで同会が行って来た、奈良町(中新屋町)についての安全・安心・快適に関する研究の中間報告を行い、問題提起とした。

事例紹介は、下記5名により立場の違う観点から発表があった。

- 1 奈良市消防局文化財防災官の奥田政信氏は、奈良市消防局の取り組みとして、奈良町のような木造密集地や文化財への災害対策を文化財防災官という立場より報告された。
- 2 原市今井町の米村博昭氏は、今井町が伝統的に行って来た防災についての取り組みから、現在行われている具体的な防災計画の紹介を報告された。
- 3 関西電力(株)奈良支店の北嘉信氏は、電力を供給する企業の立場から、電力の安全性や、環境にやさしいエネルギー、災害時の復旧の早さ等の提案をいただいた。
- 4 近鉄ケーブルネットワーク(株)飯尾昇氏は、サービスエリアの紹介とケーブルテレビやインターネット事業により、相互通信による地域防災、防犯等の可能性を紹介いただいた。
- 5 奈良市済美地区社会福祉協議会の川端俊夫氏は、組織的な取り組みとして、自治会との連携を行った上で、地域の高齢者、身障者等の補佐として見守りチーム等の報告をいただいた。



独居高齢者への聞き取り調査の様子



第3回ワークショップの様子
主に防犯問題について話し合った

3 活動の成果

(1)安全・安心・快適な町家暮らしシステム提案

完全・安心に拘わる各企業により、独自のシステムを駆使し、奈良町や町屋に則した提案をいただいた。

株式会社武警 担当：若林 清

第3回ワークショップの講師にお招きした若林清氏は(株)武警の代表でNMC監事、当日持参いただいた、防犯チェックシートおよび戸建住宅防犯診断(マニュアル)は専門家の一般知識としてのマニュアルであり、内容については犯罪者の目を充分考慮されて作成されており、反対に言えば、この項目について考慮された町家やまちづくりが防犯に関する一つのシステムとして成立しうる貴重な資料と言える。

関西電力株式会社 担当：吉田利一、北 嘉信

第4回ワークショップの事例発表で、奈良支店の北嘉信氏により行われたプレゼンテーションにおいて、いかに電気が火災をはじめとする災害に対して有効で、奈良町地域にとって有効かを説明いただいた。おまけに配布いただいた「家族みんなの 防災ハンドブック」はあらゆる災害に対する知識と心構えをイラストによりわかりやすく解説したハンドブックで、コンパクトにまとまっており、生活に則し重宝するものと言える。

KCN近鉄ケーブルネットワーク&ALSOC総合警備保障 担当：島崎和広

主に泥棒についての基礎知識と、防犯対策として住民によるソフト的な防犯活動の重要性を提案しており、具体例として、防犯環境設計の例として住宅の各部分の仕様についての提案と、ホームセキュリティの設置例として防災監視を含めた提案をいただいた。特に、インターネットの利用による新しいセキュリティの試みもあり、遠隔地においても監視カメラ等による監視や情報を管理できる事は、住宅にとどまらず、町ぐるみのセキュリティ監視システム

にも応用できる。最終的に警備担当者が駆けつけることがセキュリティの信頼性を増している。

株式会社 セキュリティハウス 担当：福山幸男
奈良町の典型的な町家に一人で高齢者が暮らしていることを想定して、企業としてのシステムを提案戴いた。緊急時には屋外にも異常を知らせるフラッシュライトや屋外用ベルや、火災時には自動消火装置、自動通報システム(コントロールセンターや警備員の派遣システムはなく、最寄りの消防、警察、家族等への通報)トイレセンサー等の設備が提案されている。

セコム株式会社 担当：徳永尚司

奈良町の典型的な町家に一人で高齢者が暮らしていることを想定して、企業としてのシステムを提案戴いた。基本的な開口部センサーを配置の他、非常ボタンにより緊急時には屋外にも異常を知らせるフラッシュライト、センサー付きカメラにより侵入者をコントロールセンターにおいてモニターできるシステムが提案されている。

(2)コミュニティとしての町家暮らしシステム <まちぐるみの防災環境を整備>

中新屋町において数年前に発生した2件の火災や、阪神淡路大震災の教訓から、町内会における防災に関する環境を今一度整理して、住人全員が普段の生活の中で取り組めるシステムとして、下記例に示すような具体的なシステムづくりが望まれている。

- 1 木造建物が多く、個々において耐震・防火についての診断と配慮
- 2 自動火災報知や自動消火設備、緊急ブザー、消火器等、町ぐるみのシステム
- 3 電柱、ブロック塀等、震災時において危険な個所を点検整備



中新屋町の道路内の水槽



ワークショップで危険な箇所と指摘された一角

- 4 災害時には裏から隣地への避難経路の確保
- 5 町の人たちに緊急連絡が行き渡り、安全が確認できる連絡網システム
- 6 震災等の災害時に町の人々が避難する場所や連絡場所等、情報の徹底
- 7 空地进行を有効活用して防災公園等、防災目的の拠点とする場所の確保
- 8 火災の初期消火を地元でできるシステム(鳴川ポンプ隊、女性防災クラブ)
- 9 自治会、自警団組織を基本にした清美地区自主防災連絡協議会の強化
- 10 隣町や元興寺防災組織、鳴川ポンプ隊との連携、防災訓練の実施

<まちぐるみの防犯環境を整備>

奈良町観光が定着し、店舗も増え、奈良町の中心である中新屋町は外部から訪れる観光客の数も年々増加している。本来の町家は店舗併用住宅であり、24時間生活の場であったが、最近では夜には無人の店舗や施設が存在し、空き巣犯罪についても数件報告されている。

- 1 道路、路地や駐車場、空地等、暗い場所に街灯やセンサーライトの設置
- 2 防犯カメラを通りの要所に設置した防犯管理システム
- 3 近所同士のコミュニケーションにより住人同士の助け合い
- 4 店舗(店子)の方や奈良まちづくりセンターとのコミュニケーション
- 5 不審者に対する声かけ、住人による監視システム
- 6 緊急警報ブザーやフラッシュライトの町ぐるみの設置



元興寺の放水銃

- 7 建築工事時におけるセキュリティ、不特定者の監視を現場担当者に徹底、町への報告

<独居高齢者に配慮されたシステム>

最近の高齢化率を見ると中新屋町で32%、清美地区だけでも30%を越えている現状は、少子化を背景に加速されており、ますます独居高齢者が増える可能性が高い。

- 1 緊急時の避難経路等のシミュレーションを日頃、近隣住人とする
- 2 近くに住む家族への緊急連絡先等を自治会が把握
- 3 施錠されている場合の緊急進入経路を自治会に届けておく
- 4 緊急警報ブザー、フラッシュライト、携帯ボタンを設置
- 5 日頃のコミュニケーション、見守りチームを組織
- 6 ホームヘルパー、デイサービスの日時等を自治会が把握
- 7 台所等に自動消化装置を設置する(図2)

(3) NPO等による人的サービスシステム

奈良町地区には幾つかのNPOが存在し、独自の事業を展開しており、これらの団体と自治会が地域での役割を担う協同関係を構築するべきであり、専門的分野を得意とする団体からは、安全・安心・快適な住まい&まちづくりにおいての知識を簡単に得ることもできる。これら人的サービスを総合的に活用することにより、新たな地域システムの展開が可能と言える。

- 1 社団法人奈良まちづくりセンター
建築およびまちづくり相談、物語館事業
- 2 奈良市清美地区社会福祉協議会
見守りチーム、ふれあい会館事業



庚申講
安全・安心なまちづくりの原点

- 3 特定非営利活動法人奈良NPOセンター
講師派遣
- 4 奈良県
出前トーク、防災カレッジ
- 5 奈良市
防災センター体験、防災講演会
- 6 私のしごと館
消防官の仕事、介護の仕事の体験

4 今後の取り組み

当研究会は福祉や建築関係の専門家による勉強会レベルで続けられてきたが今回の事業を基に、実質的に町家や町を調査し、町の人々を巻き込む形で、専門家をネットワークする形により、より具体的な対応を行っていきたいと考えている。

安全・安心・快適に関する町の人々の要求を、個々の建物やまちづくりについて実現するためにはプロデュースという形をサービスとして提供できる組織づくりを行って行く必要があり、行政への提言については、政策提案ができるシンクタンクとしても機能することが求められる。また、自警団の延長線上には、NPOによる地域警備システムという新産業の展開も考えられ、今後の活動をより積極的に行うことにより、奈良町だけではなく奈良県全体をも視野に入れた安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会をめざすことができるものと考えている。



ワークショップで指摘された中新屋町の改善すべき点



家の軒先に置かれた防火バケツ

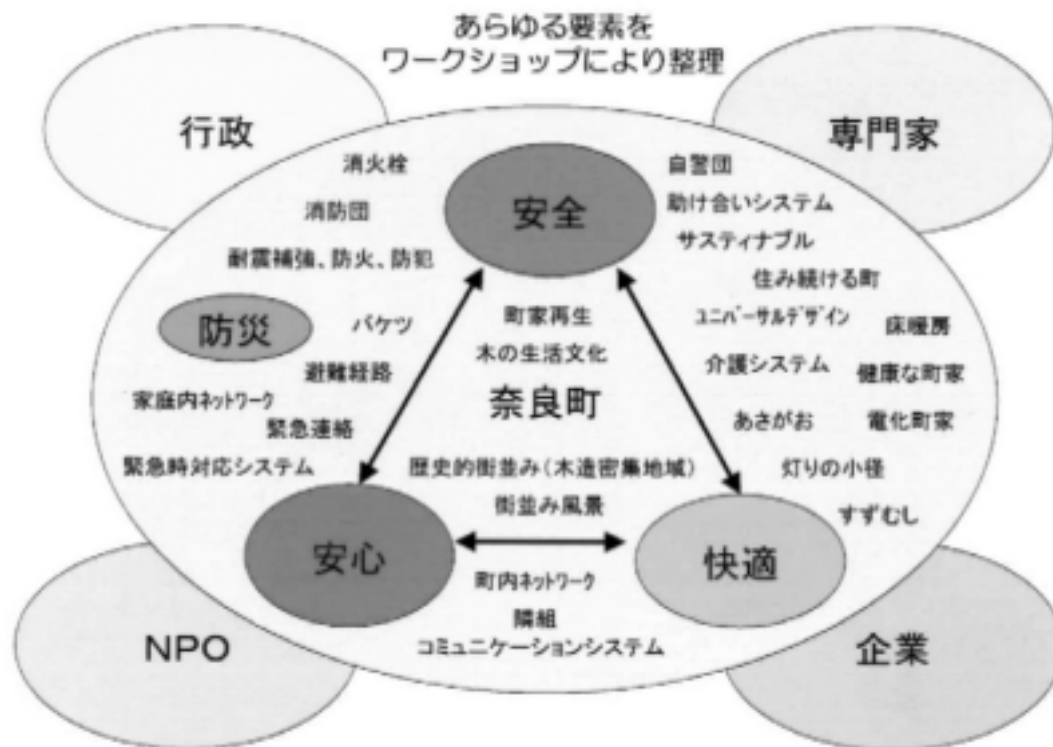
奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり提案

<目的と期待できる効果等>



- 火災、地震時の防災対策、避難対策
- 緊急時の助け合いシステム、隣組の連絡
- 観光化にともなう町への弊害、暮らしにくさ対策
- 高齢化率25%を超える地域が抱える問題対策
- 独居高齢者、身障者の緊急連絡システム
- 安心して住み続ける町家、町のシステム
- 地域コミュニティのまちづくりとしての新しい展開
- 地域NPOの役割と存在意義
- 企業の社会貢献の誘発
- 行政によるバックアップ
- 専門家による研究、支援システム
- 行政への提言、他の地域への参考事例

奈良町の中新区町を題材にしたシュミレーション



奈良町の安全・安心・快適な住まい&まちづくり研究会